

これから始まる、新しいまちづくり

「人が輝く交流体感都市」をめざした七尾市総合計画の「基本構想」(計画の基本的な方向性を示したものを)を広報ななお2月号でご紹介しましたが、今回はそれに基づいた「基本計画」(各部門ごとに行う施策を示したものと)「実施計画」(施策をより具体化したもの)の内容をご説明します。


平成21年度に取り組み「実施計画」は、予算を伴う個別事業として、5〜7ページに一部掲載しています。

広報ななお4月号で全体概要をお伝えし、5月号以降ではその中でも今年度特に重点的に取り組む事業について、さらに詳しくご紹介します。

Q. 総合計画ができたからって、私たちの生活にはあまり関係ないんじゃないでしょうか？




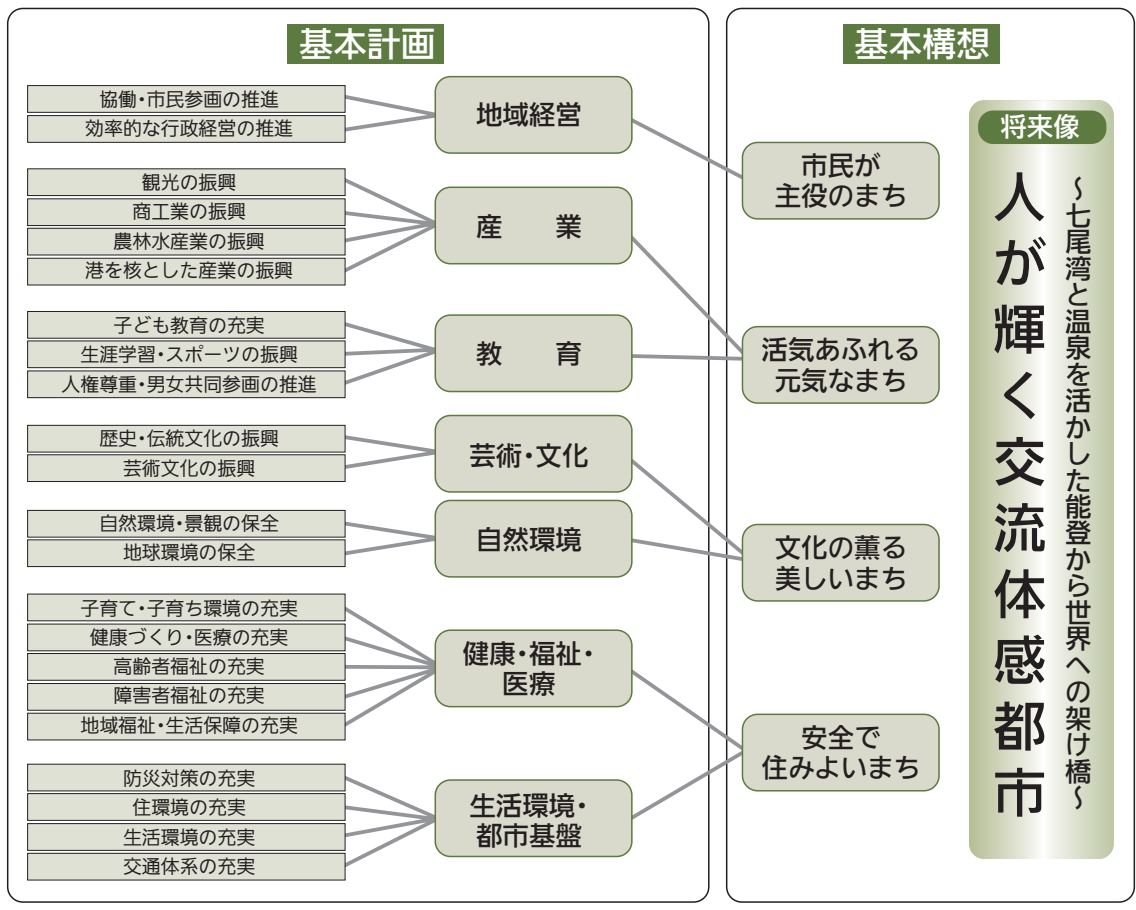
A. いや、決してそんなことはないよ。総合計画は市の最上位計画(最重要計画)なので、市が行う全てのことがこの計画に基づいて行われるんだよ。つまり、全ての市民・企業・団体などに関係してくるというわけだね。



Q. 計画って作っただけじゃ意味がないんじゃないの？



A. そのとおり。計画を作ることが目的ではなくて、計画に書かれていることをいかにして実現できるかが大事だね。そのためには、ぼくたち市民一人ひとりが自分たちのまちのことを考え、行政と一緒に行動すること(＝市民協働のまちづくり)が必要なんだよ。

平成21年度は次のような事業を行います。

総合計画にある4つのまちづくりの基本方針ごとに、新規事業と拡充事業を中心に、主なものをご紹介します。

※ (新)は新規事業、(拡)は拡充事業、(継)は継続事業を示します。



I 市民が主役のまちづくり

地域経営

市民・事業者・行政による協働のまちづくりを進めるとともに、市民が積極的にまちづくりに参加する、市民が主役のまちを目指します。また、広報・広聴活動を充実するなど、開かれた行政経営に努めるとともに、行政サービスの向上や行財政改革の推進を図り、健全で持続可能なまちを目指します。

(新) 地域づくり協働推進室の設置

420万円

協働のまちづくりを推進するために、新たに地域づくり協働推進室を設置し、(仮)まちづくり基本条例の策定検討や地域づくりコーディネーターの配置などを行います。

(新) 行政施策アドバイザー

99万1千円

市の政策を具体的に進めるためのアドバイザーを委嘱します。

(新) 協働のまちづくり推進事業

600万円

市民活動団体などから協働のまちづくりの推進のために提案された事業に対し、1団体30万円を限度に補助を行います。



市民による選考委員会にて審査・選考を行います。

(新) 地域の底力向上支援事業

400万円

町会などが行う地域課題解決事業などに対し、地域づくり協議会を通して助成します。地域コミュニティを活性化し、地域課題の解決や地域力の向上を図ります。



地域づくり協議会では、活発な議論が行われています。

II 活気あふれる元気なまちづくり

産業

魅力ある地域資源を最大限に活用して、国内外を問わず、多くの観光客が訪れるまちを目指します。また、地域に根ざした観光・商工業や農林水産業の振興を図るとともに、七尾港の振興や中心市街地の活性化を図り、活気あふれるまちを目指します。

(新) 地域資源連携滞在型旅行商品開発事業

283万2千円

21年度からの3年間で、観光客のニーズに合わせた地域資源の連携による滞在型旅行商品を開発し、交流人口の増加を図ります。

(継) 和倉温泉まちづくり事業

1億8,650万円

住む人や訪れる人が楽しく行き交う温泉情緒あふれる街並みを整備（弁天崎公園、総湯前広場、市道など）し、回遊性の向上を図ります。



観光客がより一層そぞろ歩きができるような温泉街を目指します。

(新) 観光圏整備事業

40万円

能登地区4市5町の連携による観光圏を整備（宿泊魅力の向上、観光資源の活用、PRなど）します。

(新) 子ども農山漁村交流プロジェクト事業

20万円

豊かな農山漁村地域に農林漁業体験や農村生活を通じた伝統文化や自然などにふれあう学習を実施し、交流人口の拡大を図ります。そのための受け入れ体制の強化に向けた研修会などの開催、マニュアル作成、広報活動を行います。

主な事業は次ページに続きます。

